



樺太と先住民

平成9年10月28日～11月21日

tlangi(トゥランギと読む)という単語をご存じですか。これはニブフ(ギリヤーク)と呼ばれる民族の言葉ですが、やがてアイヌ人に伝えられ、**tunakay** となりました。そして、更に日本語に入ってトナカイとなりました。おそらく多くの人にとって、余り耳慣れないこのニブフ(ギリヤーク)族は、他の幾つかの民族とともに、実は日本人と深い関わりを持つ民族なのです。今回の展示では、これらの民族に関する資料を集めてみました。

展示資料一覧

<>内は当館請求記号

日本人がやってきた その1

江戸時代、鎖国から開国へ向かった動きの原動力の一つは、交易を求めくる外圧でした。何度にもわたるロシアからの交易の要求は、江戸幕府に北辺警護の重要性を認識させ、18世紀末には、いくつかの北方探検隊を送らせるに到りました。

1. 近藤重蔵・間宮林蔵 樺太占領記念

長田偶得著

<YDM6772>

東京 裳華房 1905(明38) 118p 24cm

日露戦争終戦直前に出版されたもので、北方探検をしたことで知られる二人の人物が取り上げられている。

2. 大陸開拓精神叢書 第2輯

満鉄弘報課編

<GE357-E40>

奉天 満洲日日新聞社 1940(康德7) 116p 19cm

当時の時代背景を担って、「大陸開拓に志す人士に新たなる示唆を供する」目的で出版された。

3. 北蝦夷図説 一名・銅柱余録

間宮倫宗述 村上貞助編 <GE491-1>

東京 名著刊行会 1970(昭45) 257p 23cm

「東韃地方紀行」と並ぶ間宮林蔵の探検報告。豊富な図で北蝦夷(樺太)を紹介している。

4. 松田伝十郎 北方探検の先駆者 第27回特別展

柏崎 柏崎市立博物館 1994(平6) 86p 26cm <GK81-E91>

間宮林蔵を伴って樺太を探検をした松田伝十郎だが、その業績は余り知られていない。

5. 三航蝦夷日誌

松浦武四郎著 吉田武三校註 <GC5-11>

東京 吉川弘文館 1970(昭45) 618p 22cm

松浦武四郎は間宮林蔵、松田伝十郎について、樺太奥地を探検し、樺太に関する多くの資料を残した。

住んでいる人々

この地域には、幾つかの民族が先住していました。主要なものとしては、ウィルタ(オロッコ)等のツングース系の民族、樺太アイヌ、ニヴフ(ギリヤーク)です。これらの人々に関する古い時代の情報は断片的な物ばかりです。まとまった形で現れるのは、帝政ロシアの末期です。革命運動に参加して、この地に流刑された人々の資料が幾つか存在しています。

6. Collected works of Bronislaw Pilsudski

B. Pilsudski Alfred F. Maje <G132-A23>

Steszew International Institute of Ethnolinguistic and Oriental Studies 1992- ?v

24cm

ポーランド人ピウスツキーは政治犯として樺太に流刑となり、多くの民族学的、言語学的資料を残した。当時としては珍しい音声資料も現存している。

7. サハリン・アムール民族誌 ニヴフ族の生活と世界観

E. A. クレイノヴィチ著 柘本哲訳 <G131-E60>

東京 法政大学出版局 1993(平5) 425, 9p 22cm

学者という立場でニヴフ族の中で暮らした初めての人物が残した日記の邦訳。

8. 樺太の地名

葛西猛千代〔ほか〕共著 <GE491-16>

東京 第一書房 1982(昭52) 234p 20cm

昭和5年に出版されたものの復刻版で、表面には現れにくい先住民の痕跡としての地名の語源研究。

9. サハリン南部の遺跡

新岡武彦, 宇田川洋著 <GE81-E11>

札幌 北海道出版企画センター 1990(平2) 263p 19cm

10. サハリン先住民の精神世界 第4回特別展図録

北海道立北方民族博物館編 <G185-E43>

網走 北海道立北方民族博物館 1992(平4) 50p 26cm

先住民の宗教用具を中心に日常の道具なども紹介している。

11. 北方の民具1

河野本道編著 <G185-74>

札幌 北海道出版企画センター 1976(昭51) 186p 19cm

12. ソビエト連邦極東少数民族展 サハリンアイヌを中心として

アイヌ民族博物館, 日ソ極東・北海道博物館交流協会〔編〕 <G132-E7>

白老町(北海道) 白老民族文化伝承保存財団 1987(昭62) 70p 20×21cm

基本的には先住民の日常道具を多数紹介しているが、日本領時代の写真なども含まれている。

日本人がやってきた その2

いろいろな経緯により樺太の南半分は日本の統治下に入った時期がありました。江戸時代のように測量のため、探検のためというよりも、この土地に住むためにやってくる人々が増えました。そのため、島の状況も大きく変化することになりました。

13. 樺太殖民地撰定報文

大泊 樺太庁拓殖課 1910(明43) 147p 23cm <YDM26728>

本書の「目的ハ植民ニ適スル土地ノ状況ヲ叙シ農牧事業企画ノ参考ニ資セントスルニ在リ」。

14. 樺太境界劃定事蹟

〔東京〕 陸軍省 1910(明43) 221, 66, 37p 26cm <YDM26726>

15. 樺太殖民の沿革

豊原町(樺太) 樺太庁農林部 1929(昭4) 107p 23cm <DC812-25>

16. 樺太探検記

松川木公著 <YDM26729>

東京 博文館 1909(明42) 176p 22cm

当時樺太に渡った人物の体験談。

17. 移住手引北海之友 附・樺太案内

堀田量編 <YDM23289>

小樽 堀田商会 1908(明41) 1冊 19cm

基本的には北海道を扱っているが、樺太への移住に関しても紹介している。

18. 樺太・遠景と近景 歴史のはざまと暮らしの素顔

杉村孝雄著 <GE491-G1>

札幌 杉村孝雄 1995(平8) 372p 21cm

当時の新聞記事を中心にかつての樺太での生活を紹介している。

19. 土人調査 オロツコ其他

樺太庁敷香支庁編 <715-57>

樺太敷香町 樺太庁敷香支庁 1933(昭8) 25p 20cm

先住民の風俗と当時の教育政策などの実情の報告。

戦争と引き上げ

明治時代の始まりから第二次世界大戦の終了まで日本は幾つかの戦争を経験してきました。そのなかで第二次世界大戦は、この島に住む人にとって最も大きな意味を持つ戦争でした。大戦の終了は、島にとどまるか、離れるかの選択を強いることになりました。

20. 風雪に耐えて 樺山会創立二十周年記念誌

樺山会創立二十周年記念誌編集委員会編 <GB554-1861>

〔札幌〕 樺山会 1984(昭59) 430p 22cm

21、22 とも、当時の兵士や行軍、現地の様子などの写真が豊富に掲載されている。

21. 樺太国境守備隊の終焉 陸軍歩兵第一二五連隊と配属部隊の戦記

鈴木孝範著 <GB544-G1>
〔室蘭〕 山吹会 1995(平7) 327p 22cm

22. 樺太忠魂史

伴雄三郎, 市川与一郎共編 <GB441-E30>
豊原町(樺太) 県社豊原神社社務所 1935(昭10) 374p 23cm

23. ゲンダーヌ ある北方少数民族のドラマ

田中了, D. ゲンダーヌ著 <A68-Z-36>
東京 現代史出版会 1978(昭53) 303p 20cm

当時の同化政策について、実際にその対象として扱われた人物への取材をまとめたもの。24も同様だが、写真が豊富。

24. 戦争と北方少数民族 あるウィルタの生涯

田中了編 <A68-Z-E87>
東京 草の根出版会 1994(平6) 235p 23cm

25. 苫小牧市形成調査 2(昭和59年度)

〔苫小牧〕 苫小牧南高等学校郷土研究部 [1985(昭60)] 52p 26cm <GC7-E69>

市制施行の直接の要因として、引き揚げ政策を取り上げたもの。

そして...

戦争の終了とともに日本で暮らすことになった島の先住民達は、その後どうなったのでしょうか。異民族間の結婚が自然なことであり、自己の帰属意識が民族というよりも、寧ろ氏族にあるという伝統を持つこれらの人々にとって、異民族、つまり日本人の中で暮らすということ自体に問題があるとは思えません。しかし、生まれた土地と慣れ親しんだ生活に対する記憶は強く残っています。

26. 最新サハリンの旅全ガイド

北海道新聞情報研究所編 <GE491-E33>
札幌 北海道新聞社 1994(平6) 181p 19cm

巻末に簡単な会話集がある。

27. 望郷樺太鉄道回顧史

中尾重一著 <DK55-66>
札幌 中尾重一 1981(昭56) 248p 26cm

28. ギリヤークの昔話

中村チヨ口述 村崎恭子編 ロバート・アウステリッツ 採録・著 <KJ22-E1>
札幌 北海道出版企画センター 1992(平4) 277p 19cm
ギリヤーク民族で、北海道に引き揚げてきた女性による口述の伝承をまとめたもの。

29. サハリン 樺太は遠く写真集

国書刊行会編 <GE491-21>
東京 国書刊行会 1983(昭58) 158p 22cm
かつての様子と現在の様子が写真により比較されている。

30. 戦後40年サハリン(樺太)第17次墓参思い出の記

17会文集編集委員会編 <GE491-29>
札幌 第17次サハリン墓参団 1985(昭60) 71p 26cm

◎請求記号が YDM ではじまる資料は、マイクロ資料でのご利用になりますので、展示期間中でもご利用になれます。

国立国会図書館 03-3581-2331(代)
ホームページアドレス <http://www.ndl.go.jp>

■国立国会図書館 ■□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□■03(3581)2331■